

▶ S-KYT研修を実施して ◀

長野県佐久市消防団

1. はじめに

佐久市は、長野県の東部に位置し、北に名峰浅間山、南に八ヶ岳山麓などの名山が連なり、中央部を清流千曲川が流れ、県歌「信濃の国」の4つの平の一つ、「佐久平」に位置する豊かな自然が織りなす風光明媚な都市であります。

また、本市は、北陸新幹線、上信越自動車道が東西に走り、首都圏等へのアクセスにも優れており、佐久小諸ジャンクションから佐久南インターチェンジまでの間にて一部開通した中部横断自動車道は、さらに南に向けて整備が進んでいます。

高速交通ネットワークの拡充に伴い、日本のほぼ中央に位置する本市は、高速交通の結節点、交流圏の拠点として、飛躍的な発展が期待される場所です。

2. 消防団の概要

佐久市消防団は、平成17年4月の佐久市、白田町、浅科村、望月町の合併と共に誕生し、現在、5方面隊・23分団・47部制・実員1,811名（うち女性団員44名）により地域住民の「安心」と「安全」を守るため、活動しています。

平成25年12月に定められました「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を受けて、消防団員の処遇の改善を行うとともに、安全確保のための装備の充実を図り、火災などの有事に備えています。

また、平成27年度から機能別団員として、防火広報団員、学生団員、消防団協力員を設け、消防団のPRや救命講習会の補助、地域と消防団とのパイプ役等を担い消防団と連携し、活動にあたっています。

3. S-KYT研修(3時間コース)を実施して

平成28年9月25日(日)にS-KYT研修(3時間コース)を開催しました。

各消防団の班長を中心に、参加した50名の団員を10グループに編成し、4名の講師の皆さんのご指導の下、この研修に取り組んでいただきました。

指差し呼称(始めは照れながらも「椅子、押し込みヨシ」と小声で呼称してましたが…)、タッチアンドコール、参加者全員大きな声で指差し唱和を行い、会場内の連帯感はいつになく増していました。

参加した班長からは、「他の団員と一緒に、指差し呼称やタッチアンドコールを行いたい。」「グループ討議を行うことで、危険要因を学習することができ、危機意識を高めることができた。」「このS-KYTの重要性を改めて認識することができた。」など有意義な感想をいただくことができました。

言うまでもなく、災害現場は常に同じ事が起こっているわけではありません。

危険要因をいかに早く探し出し、事故防止につなげていくのが課題でもあるかと思えます。

消防団員は、緊急性と危険性を併せ持つ、災害現場に出動をします。

災害現場で事故を未然に防ぐためにも、このS-KYTを全ての団員に浸透させていくことが大切なことであると考えています。

4. 今後の取組について

今回の研修を終え、受講された団員より、当訓練は事故防止にあたり、非常に有効な訓練であったとの感想をいただいた中、「～ゼロ災でいこう～」、このキャッチフレーズを団員それぞれ

が胸に秘め、公務災害の発生件数を減少させていくとともに、今後も定期的に関催をしていきたいと考えています。

今回の研修の開催にあたり、ご協力いただきました講師の皆様、消防基金の担当者の皆様に

ありましては、あらためて感謝を申し上げます。そして、佐久市消防団は、「公務災害 ゼロ」を目指して取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願いたします。



平成 28 年 9 月 25 日 (日)
長野県 佐久広域連合消防本部 佐久消防署講堂